八文字屋

へ遠13
976
5

門へ遠13
576
5

美濃舊衣八丈綺談 巻之五

東都 曲亭馬琴 編演

艮為山

あゝこの駒ノ下却説岐蘓八郎ハ母親間柴ヨ伴ヒて次の日羽栗の郡なる復塚へ還ル途ヨ。宿をづゝ元日屋の門ヱや近くるゆしゑ。澳水ハ嬉く出迎ヘて。馬の絆縄を牽まで。ヨ。訪ひと限つゝ。ゆまちのゝ。でゝ元ヒて。ヒとゝ。ゆゝ。ざうけるヨたゝを還ゝ。ひ。と。待態も正首ヨ。覓の水紙流ゝかけく。姨と岐蘓ホ足を洗せゝ。ゝ駄荷式とゝ入ヒゝ。遽ゝく。汲ゝ出ヒ。茶を。ゝ。ぬ。操に今下ゝのゝゝませどを岐蘓ハお駒を伴ふく。走ゝんとゝゝひとその疲れヨ。翹輙ゝる腹立ゝヨ。笑ひゝけてもおゝゝゝ。當下向柴ハ澳水ヨ對ひく。ゝひゝ猝易く。岐蘓ヒを得てゝゝる。白木屋の首尾ゝちをなく。告ゝゝせ。ど

まる程よ。近鄰さ莊客们襲ひ来く。岐羅が里ぐろと視せ〜ぶ母親間柴折と
ゆるで怨地ぶらかう。曩よ岐羅ぐ白木屋式出ぐてよ志ぐ〜しへ情由ありぬべき
るえ巳ろ式ゆくうへうとぶ主明葉の貝式竊こて。稻井赤坂の傀儡女よ惑へ
さとつ曉ぢやあるらん。とと又志ろぐ巳渠ろぐ家よろうてとう系野ごろの
失ぢとあくぶ親がひとうえ劬労巳て結句人よ笑ぢうん翌ともまで今
霄只澳水ぢひろよまるとえへ巳ろまを足械ろ〜ぢ。ぶ〜ろう決めつ。
莊客ぢてうが固仕〜く。茶式嘩る窓のるとろ人岐羅と澳水をたらうん又
あくくろく澳水が親の逆言式流志巳汝達今霄婚姻の盃式ぢてしとて
後こまでのるさんよ。叮嚀よひ喩せぶ莊客们うち仗て岐羅が回答式ゆも
まてぢそ八巳のるふてそ。ろうをけ八日子八よう〜。せよ差ろく在〜とえろう。
人よ伝といまてる。吉式ろぢこの雜魚平が蹟と固るろうまぢさせる儲へせぢを

あを蓬莱の松八門よあり。常世の行八背門よあり。盃のくぶ山海式珍味ぢほて
ろ不愛さ〜。吾倅媒妁つまろうん。鋤四郎八曲突を焼け。拔太郎八酒屋走を。
序よ豆腐と志ろろる。寔よ千秋萬歳の千。宮式王子ぢふあり。こを究
竟の殼ぞ。とうち式ろを憑〜く。庖温のる式助ワ〜ぶ岐羅八推辭よ云系
ゆく。澳水八巳ぢぶ〜さろよ何ろを胡乱こと散動よ弥ま〜く日式暮
せぶ。莊客ぢて〜執持つ。婚姻をとろ締〜く。まぶ新夫婦式外房八を更闌る
まぐ醉式盡〜く。夜ろ共よろうワ。かくま間柴八子どもら式婚姻を
整へく。十七年の患難劬労を昔ぐろとなるまぐよ。重荷式ろうせ〜ぶ
地〜ぶ。豫てろうる式人の為よ坂東三十余个所なる。親世音の灵場と巡礼の
志願あり。特よ今茲八復市が十あまり七回の忌日さ人むろ〜〜よ〜ぶつまぐろ
跡止さべき。拾ひ〜金乃半ゆく。田質を大〜〜清復せ〜ぶ。ぶよかる隈を

る。両三年系八世孔浪風を静まく。ようゝ孔伴侶をあるうまとべと呉
管おめひゝゝつ隨ゝ。鮑く徘乃頭式岐義澳水ホゝ視ちし。猛ゝ生ゝゝ
禪衣ゝと行装を整つ。同郷鄰里乃老夫婆ゝホとうちつゝ立て首途
せり。さゝ往ゝ岐義八便宜と失ひく。已ゝ式ゆゝど八重葎。磐ゝる宿ゝつ
ゝ。ゝ。澳水を妻ゝ〜ゝとゝどゝとゝゝ忘ゝゝ〜て呉ゝゝ〜と楽
まゝど。丈八ゝ取ゝしゝる。お馬ゝ乾簡と八丈の袿を紀念と壁ゝ貼屏風ゝ
かけくうち瞻め。世ゝ八罕なる宝といゝ燕の子安貝ゝゝを龍ゝ腮の玉ゝゝを
ゆゝ式ゝこの玉章なり。ゝゝとゝゝゝ式ゝゝゝ春蚓秋蛇のゝゝゝ書ゝく
遍ゝゝを目がゝゝゝどゝゝゝひ深ゝる黄涙の。衣乃摸様の蝶ゝゝゝゝと花ゝゝ式
杖ゝ八宿ゝゝめ式ゝゝゝゝ過世のゝゝゝゝけゝゝゝゝ小町式ゝて〜醜女を使ひ。
伽羅ゝ撫く糞土式抓む。この抓のひゝとゝゝゝゝゝゝゝ憑失ぬうゝゝゝ

香のゝゝゝゝゝゝゝゝ絆ゝゝゝゝゝ壊臭く日南臭き。澳水ゝ面ゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

肩腰の嫌ひなく。打倒さを蹂躙らく。日毎の呵責は四鄰と騒がしいと苦しきものゝ妻子。さらを澳水に仂く。打る〻隨ふ爭ひなど。有一日良人は對ひていへ

ゆう。嫌なとこそいうをとこより外は里もなく。出て中ぐき家にあり。後は勢ふ

貧縁ゝ。ん方は故おひとる。悪縁といふよせん。後すどちとて稱きとろ。云

号らをあをを閨の小川の親方は。勤て在せしの年来迷はいをる。異

妻のあるゆとべよりや母の命でを左まを右ゆを假托く。さてあぐきふをまを。

稱ぬうとゝ紙うとゝ衣のうとゝ自へなる妻ゆゝ。その夜だろのうをを情異を

うびれの霧の海。ひ沈ゝくとく死移しとらぬだろは打罵ま。飽まで強

顔き夫でを夫とゝくべ憎ゝとを故えかぬうとゝふが目ゆを。家宿は掛ゝ

本ゝるより。南宮山の神有ゝり。ゆれゝるげは巻ゝ。ぐゆゆふ情由である。

艶簡とふとゝ水草の浮れ契ゝ秋黄綟の。衣ゝ主てそうとゝふをとさりとて

拓そしてまあくどいぬる日えうあひしろ。うへのそとゆく田は畑も絶て
多よりそうど。居つ食えび山を竭えん。豫ぞきそうぶ柵となりて毋改角えんを。
棚ゑーあの楫ようをうれ取ゑえ良人の機嫌かゐる嶋ゑえ方へもとうびいろの
苦ーえ式。後家の兄ろ者ぞりを良とそへもうでどや。外へえくく書車輾び
易さうとどゆるぬ夫の式精とまえ化ー野上の宿拉君路の柳は濫乃花を
折る人ゆ廃ワどを松の樓へゆるぞちくぬ。みる俊アの艶治。色は蕩えを赤阪も。
傾りく奈と掘井の傀儡を醒てえ悔ーきめどそよいと彩ーええ親の為家の
為又刃の為。意の駒を殺ぞ駐く。兄名ぞりでを女房どいうとるかひよ。女
房の苦ーえ胃を休めてぞ鄙の田舎の薮そぞち。釜柄とりて日ゆ黒ぬ膚肌
きえ新綿の。糸猴あんど草野挿ず。結髪をさど。紅粉つけど紫山子に似くう
ちくうゆるとど。神と親ぞ結びて。妹使ぞの世のそなすど。二世の縁ーと

性のくもの糸をつくり。口説く。言葉は滅顕をつくし。松はまごゝろの苦労を深る袂も腸を絞るばかりに泣き入る。寔は連言耳は逆ひ良薬は苦口は忠義は
こゝ紙はひあくと。唾をしく眼を瞪としてゐざいさう。に説くゝ。不束母は親族
でゝ。家は没ぶ親の嘖。些の痩田を崩すく。招婿へとて侮る先。こゝ巳に腐る
布きんや。抑この手筒を何とゝ云てゝ。やよこの衣ゝ。でて憎き向ひ社会ね
仇姑ゝ。仇腹立くゝ付ゝこのきゝ云る貝へあゝど一字一文引をせど続も
沼せ孫ど。寔は没ぶいとく。宗旨の祖師の門末ゝ。沼ぶ紙ゝこの筆は迹
五條七條の袈裟ゝとゝ。それ紙ゝこの衣ゝ戴ひて立地は瘧疾がおつる巳些
稀香は類ゝと。件の袖を投被けく。勢ひ猛くゝ巳間は。其処退ぞや。泣流も
澳水を撲地と蹴返せば。苦と叫ぶ紙ゝを。ゝと。衝を外面へ出ゝ。さる程は。
澳水へ蘊る抱ゝひは。病細ゝるそぶゝ人は。今は良人は打罵らるゝく。恨ね

恨は胸塞は心忽地乱ゝ人を石ぬは應つ。紙撃て目玉眸は。壁は
對ひく呵と。ちゝ天ゝと数回左右紙ゝ。肩は かゝし八文乃袖を
取く勝は乗。覗の夜は類らべかくまで拘紙ゝ。夫の好る京染紙。
いざ被てこんと忙く。榜の舊衣脱捨く。お駒が衣紙きとげなく。前の紙ゝ
細帯紙左は結びは左は褄。小服はとゝく苦元介と公夫ゝかくまで仇は打拾で紙ゝ夫の
ところゝゝ云ゝ強顔き人は何処ゆぞ。ゝ云ゝ人ゝ云ゝ。ゝ云ゝ喋ゝ
けく。襖障子は推倒。狂ゝ仏の茶と髪門の柳を秋深く。花花落葉乃
爰の世は。蔓とや。ゝ云ゝ現ゝ。外面へく走り出て。往方ゝ云ゝ。
却説岐義は村尽ゝ。友ゝ。ゝ。ゝ。その瞳青は冷ゝて。
障子襖は閉ゝ。何処ゆ紙ゝ澳水は。一旦の怒は来て。不業は走り
出ゝ。ゝ。ゝ。

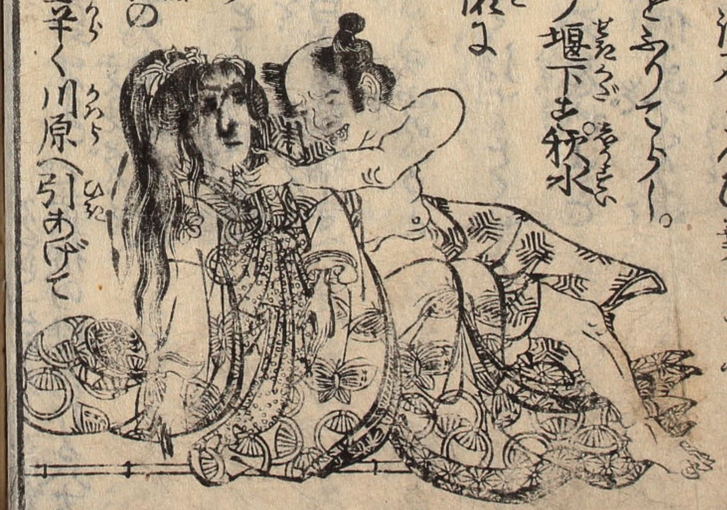
ねぐらをとぶ。明る比より屋棟よりぐるぐる鳥を常とす。孤鳴かなしく来りかゝる。
とふやうやうとひらくるに。漁火より外にうれめ紙。宿会紙は遂ざる。腹くしさに
打擲せし紙。陝き女子のひとく。恨より怪ぶ走り逃てく。傍人も殺めん。
渠へうぶ妻うづと。平き家の女児。母の旅寝の留るみく。ゝうねとれぞ来
うぶいひとくに辞ゝ。とゝ号用よりぐ。ヒと肚に同肚に巻く。忽地眉に大の
著ぐ。走り去つ。郷人に癖の紙告ちゝ。八方ふ部〳〵く。妻の往方と索ぬり。
時に天文十七年秋九月もとゝうなりぬ。不題ふ駒ハいあり七月の比より。おもひ
うけうれ急病にとゝうとそくいとでく。ぬうき紙送る扶ゝ。犬三郎と
妻ゝる。その夜紙仇に曉せうる。百遍悔千遍悔ごと今文に術をとゝ郎ハ
いく怪でやく怪もうく妻と娶く。睦〳〵の水魚のごく。出るとれも入るとれも。
絶くゝとゝ紙雑ゝとゝ色。きのふかゝるる紙又ゝ。けゝハ如此ゝこのゝとあり。ゝ斧

犬八がちのびくに。彼紙のる紙告〳〵ぶ。姫きゝ限すかゝるとゝとて怒るゝとゝぶ
あくゝど。面ぶせうる世に存命て。ひとり紙ちゝん。ゝ。死だゝ。ゝとゝふめゝゝ。頃貝ハ
生憎に。病著ゝ。おとてゝうぬ。病ゝ人ゝうゝぶ。死きぬ。ゝ人の誠ハ百年の命紙
潰るふまゝとゝめ色。偽ゝうゝぬゝその夜社とゝゝ。ゝ。ゝ。

秋雨ふる小川の水岌いやまさる。その勢ひ前のごく。特ふ夜川のことなるまでに縦水煙の
達者ゑうとを輙くうつぶあくべうとあくぶ。拉ぐと罵ること。いづくぶ夜と
明く。芒ふりて五七日。下流遠く海猟まで。元来この川はその末大野郡ふ入りて。
安八羽栗の二郡へうるとその一條は川鰭より。尾張の堺岐峨川へ漲て落又一條は合流
ふる。西三條ふうるとつ。席田本巣山県の三郡ふ跨てまく。復塚羽栗郡長良県村
黒野の里ふ上席田郡ふ帯ゑうりかく昔は水脈も今と異ゑうる山川の水岌まさて流
えゑく。石瓦滾を勢ひあるとぶ。お駒が元骸はその夜れ中ふいくぐく里ふ推流され
えんそまうとおりふ夜と泛えんそぐ。さうまとくそひ捨ぐてくうれ彼此を寄る
極ふ十月の上浣ふかりつかくく水嵩増て見るく関川よりいと迫かる。合流川の
こうまの岸ふ接ふかる立骸あり。と告るめありしぐさまぐそそ。渚平ホハ。
その処へ行くく。岸ふ裏ひくつくえるふ投てくうり。それ日ごろ往へまぐ度

壊ふ穴烟まて臭氣皇瓦穿のこ見ぐと泛るふのうるまど黄猴の涙ふなる。犬
絹の袿瓦ぐくまぐ移ふべうとあくぬ。駒ふり。殘忍貪慾人ふ超える。渚平
すまとぐと哀傷の涙不見ふ拭あくぐ。小厮ホとりろ共ふ彼亡骸を引あげて。
竊ふ宿所へ扛りくうり。次の日棺をとのくく。白木の法輪寺へ葬まひまくろ
渚平ハ女房と小厮ホ瓦最へ女児が日来いひつるゆ。ゆくるこうる瓦やと問ふ。
爺犬ハ目上の痛ふくるる。お駒をやうやく結果く。後やとくおりふ抱くり。更ホ
渚平瓦怒りく。犬を瓦さんとをる按計あまぐ。忽地ふまとこみ出ふすぐ。暁
ありまぐや。此度の不幸ハもぐく。尾張親子が仗価ふまくり。謀計ふそ定りふ。
うる。件の親子ハ多を濡さぐ。養女をとりうくまてる。怒瓦ふやくを復ぐ。
そのびくふいつのおりぐさをありぬべきなりまぐや。と真ふ告くぶ。
渚平ハこを瓦ぐあくぐ。川のむりひと疾視く。罵ること限まなく。毒ふ彩せん。

と敦圓ども。流石よいゆえ。面り。憎ゝ紙散をゞ紙正ゝ紙澄据るゆえとなるとゞ。りふ
がひなくゝく日紙送りぬ。案下某生再流復塚なる。岐蘂いその日女房澳水がゆて
ゝ紙竟ゝ索ゝびゝく。ゝトゝび宿所へゝりゝども。流石よゝひ棄ゞくて。
日くゝくゝり只ゝとり。孤子棒紙引提蕉火をゝりてゝー。
復塚川を彼此と。妻の往方を索るゝ川上ゝり堰下ゝ狩水
高く岸紙排ゝく。儘ゝとゝく凄ゝげゝゝび縋ゝの波ゝ
投むとも。久ゝく漂ゝべゝをゝトゝゝ已ゝるゝくゝと
ゝとゝりごゝく。立ゝりゝんゝとゝる折ゝり。玄中の
月ゝ昇て隈ゝる。聽ゝゝゝ水際ゝ添ゝて浮ゝつ
沈ゝ流ゝるゝあゝり。吐嗟ゝゝんゝゝび。女子ゝり。衣の
色ゝゝゝゝ似ゝゝゝび。雉て孤子棒ゝかけ揃め。辛く川原へ引あげて



まゝゝの夜ゝ色ゝゝるゝ。黄疸ゝ染ゝ色ゝ八丈絹の袿紙被ゝり。原来
澳水ゝ嫉妬ゝ沿怪ゝど。拘ゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝゝ

仮うの死亡なしまづ宿所へと扛りて選び。骸を地炕のねとりふ祓さしく文犬を
ひく煖まで中脱より陽氣復して口の脹あるが如し。原来死うでなきせーし。
ネれ偏るふまとてあ。あぐらぐと。添念しつ。おりとある舊衣紋上下ろうち
かと孤。ろぐ膚ぐりくぬるる。巣籠る雛と通胃。心を竭しく勤る孤。その曉
ぐとろ乳息かうひく。春の虫は蠢くぐく。次の日甦生ぎろりしろ。岐義公紀
紋びく。湯劑白粥何くまとかく。夜ろる日ま看病懈らぐ。かくてぐお駒へ怨ふ
ゴまとろうくく。桃方ろる。岐義とうくろくいくて。涎ぎ。ぐろふずを脩ぎろる。
縁由と尋まぐ。岐義へこぐ〻。澳水ぐ〻。紙委細ま告く。さそいこ。念力へ
岩式徹せど。主と親の稍竹東まへ。九石の弓を弯ふ。ろう。ち方を憂ま
嫉ぐーく。ぐまを西名刃を投ひうえ。いと痛ま紀心操仇まろへ。ちぐ。親方ふ
処りと乳口づぐぐて宣ろ孤。謎ぐうけく見ぐ。注ー。沿ぐうぬ紀の底をおぐぐろ

ろふ〻仝ひこのるを岐義せよ。彼るを岐義せよ。岐義ぐ。とるまろ。ぐ。
うけらぐ通毎ま。項筋忽地武者戦慄身の中解ふ仍ぐまどを。敵ふ背を
ぐんせぐろ紀。嗚呼物体なや。ぐぶるま。主乃女兒の仇をづぐ。飽まぐ。隠装供ま。
是未曾有の口果報いで賞義せぐ。ぐ紀。ぐふおぐ。面ま慚ぐろふ愧て
嚶氣ま。憤ぐぐ〻音式出さぐ。ぐまふ。ぐ紀。ぐふ。ぐ。ぐ。ぐ

あくまでふく腹のくろまゝ小女房漁水氏打罵り日毎の夫婦鬪諍る播磨
跳く四鄰を鬧せ播盆狂くく粉こ小碎けく故氏ひ自ひなる漁水を妬こよ
娘ざうゝん彼八丈の袿氏被る。鬱こ生て往方ゝまでぞ。り〳〵入水ゆくつ
らんと涉獵る疾川こ不思議の獲物。正〳〵恐〳〵夜の色妻こうんまで
なりひきや。惡〳〵氏君ぐ在んとゝ尾氏捨くく玉氏拾ひ。細魚氏細〳〵く
鯛を獲こる。教びゝ言の業こ。演るとゝ盡〳〵ぐ。ゝかくて夜こ日小療難乃
丹精竟こ空〳〵ぐ。ゝぐ家小〳〵く甦生ゝるゝ。教びゝたゝ〳〵く。
一生涯の業氏ゝこのゝ氏こ極めくゝ。ゝぐ。
あゝくたべと宴〳〵拜〳〵因果塚。忘れんとゝ〳〵べいとゝ〳〵ゝ。忘れぐ氏
刃の因果氏ゝるゝを氏刃の因果因果を救ゝせゝ。と祈〳〵誠こ鬼神も
感應。その導こあゝゝざうせべ。海境の骨ゝゝるゝ小あひぐ氏ゝ。ゝ小端こ

ゝゝあゝん母〳〵く御平ぐ隣の風杵氏枕こ葬家。秋乃弱脚蚊いぶせくゝを。
情郎とゝ〳〵こ世こ。あ〳〵ゝゝゝゝ娘〳〵ゝゝゝゝゝゝ。と良こ仇げる氏
艷冶圓こる風氏糸小。ゝひぶけゝる氏のゝ。ゝ氏日視氏ゝ今更ゝ。ゝ的ゝ
直ゝ呆ゝ。ゝ。数回嘆息。原来獰ゝ弾みゝ丈八ぶ彼ゝゝゝ氏欺詭ゝ奸謀
こゝ。ゝゝ氏ひけゝ。ゝるゝゝ才三のゝ贈こゝる。艷簡ゝ袿氏ゝて〳〵。
岐路ゝゝゝゝゝ。迷ひく。穆氏比〳〵云〳〵。妻小ゝいく故氏ゝゝゝゝ。その
存亡の定ゝゝゝゝゝゝゝ実変であゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝく小を女子ゝゝ。世こ罪ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
なる憂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よくを「人よ。南宮奈の王は亀成の落躅の弄とゆうんいふものよ。よく然うけるを男児よ。女子が勢想とる拒ふ。とうふ。そなたこゝ愛こゝ。拒ひつるゝ才三のゆゑ。密の使をさせんゝ為共よ走らんとて誓ひの書よ。袖紙そえて贈りしを。八犬士八が欺詐よ。とうゝ。意ふ。そなたゝよあらぬ。是ハ彼ハ。彼ハ彼。彼ハ彼。と我ゆゑ。ゆへ。そハ今ゆゑ。情区。さてゆへ。とまゝとくを。あゑ尾花刀称ハ彼ハ方と。ゆゑ。ゆへ。ゆゑ。ゆへ。ゆゑ。ゆへ

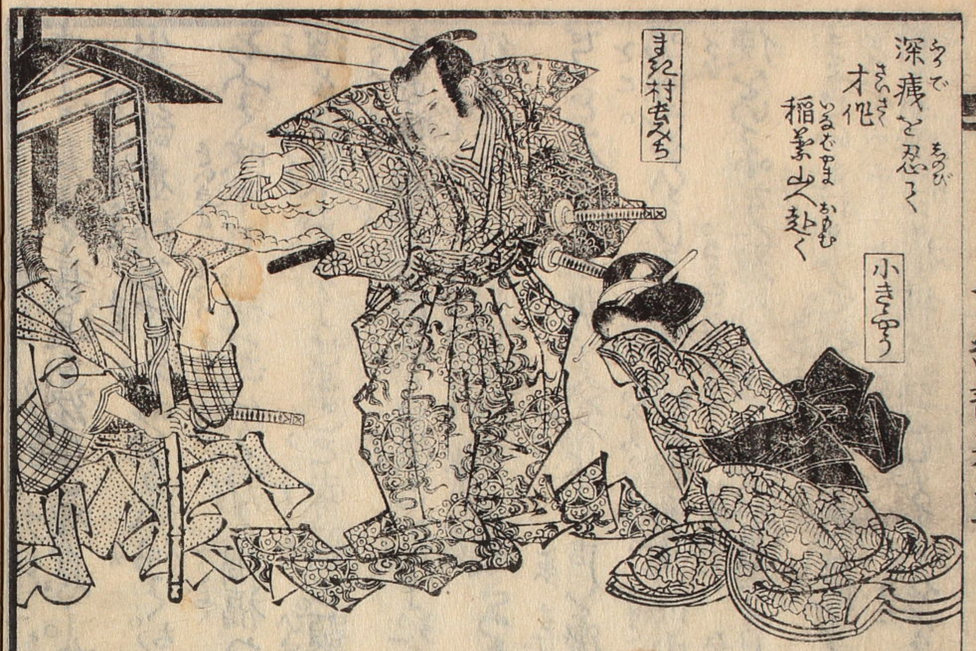
値偶の誠仇を受るべくあらざるかくまでこそ弦とひなる。岐蘇がうを不便。
とやせまし。かくやせましと決る程に王昭君が胡地を帰げる心地して初て嫁ひ。
中は疑ひ。後は情を羈さるとく。只いろとなく牡鹿鳴小夜の衾を共にしく。
墓なく枕とうべくべし。岐蘇は不完を神浮を心蕩けく恍惚と毬を玉ぶ
獅子のごく。天蓼を仗る猫児の如く。お駒が身のこうづを暮しくぷつと人乃
幾とろろぐ。長さや媚と惹といふ蜻蛉の験欲。あやしくをうこそ紀夫婦乃情
縁を不顆尾花才伜はお駒を諸平をうくせ比ろうなく妻の兄牧村牛之丞
長通を訪をつ。頻を婚縁とのひうくそが女児佑駒を迎ろうく才三郎を
妻せろう。素より佑駒は容止の儔罕なるのこうくぐ心ざるいと怜悧な
長通は十八郡の主を仕く諸司の長さう。その為は深窓を艱をく薪炊の
事を疎ろうけを才三郎が妻をなりてを女の童ごを使ひぐ。よく阿翁乃

ところ弦知りく。その進止正首をと弦のく才伜小桔梗を集はお駒をまの
ろうとく。愛惑むを大ろうなるぐ。さをぶ妹伜の親浩を親乃ちりをを
一トしわまりく。偕老の契を濃やかりう。かをを程を秘ををや。一旬足らぐ小
暮やく孔も駒は憂を泣ぬぐ。されば小川に投るを。風なかををろうりしぐ。
尾花親子は今夫小。その薄命を悼をつ。とをぶ為を楽まぐ。ちのびくを流を
招はく。経を読ぐ非時を備ぐを本ーろ弦いひ出く。ろうぐ袖を濡ぐーぐ。佑
駒はお駒が心操弦。ひやりつ慰めろ孫く。ろう共を泣をろう。佑如を稲茅山ろう。
佑駒が父牧村長通。お使をく来隔ぐ。當下長通は後者ホが卑居ろ。輪
子をとをとく出く。尾花親子を價ぐ。をを容房を入りしぐ小桔梗佑駒を。と
迎く。長途を労ひ差るをと祝ー。才伜は茶ー。守の命弦請冊べ長通扇を膝を
推立和歌不思議を獲ろうとは稲茅山の硯のを。時宜をとろうく仕をあげーか。

守珠更に愛させ給ひ。件の硯は當初ちん又道三君いと惜しの実に宇宙の重器風流の奇品。さるふ才伝たるとぞを獲て。と弦弄ると。人と器と相応せり。その硯を進ぜよ。この詔びに才伝と才三郎に對面せん因縁あるべ汝いかに。硯とも小彼小親子とおぼゆ。と仰せらるる。路次弦いそぎ貝今到著さるる。速に見系れ准後弦さるべ。才伝謹ぐ兼て某硯を獲つ。此小桔梗ホハ崇弦おそれ。或ハ舊の密へ返せといひ。或ハ守へ進ぜよと勸ゝるど。崇弦おそるゝ婦女子の常情故なく守へ敵ゝべ。孰ろ媚るといへざるんと弦ひく黙止せよ。おのけるべく家臣さる。和殿とりく硯と名ぶ。親子が見系弦許さるべ。是よとゝるる紀面目。硯ハ年来書齋に秘置。日々毎に愛翫せざるとぞ。まづ使の展検に倚べーと。才三郎ゝく書齋る。伐戸の鎖弦開う。硯の稽弦とりまとゝ。牧村に遍ぜーゝべ長通ぶづゝ紹と

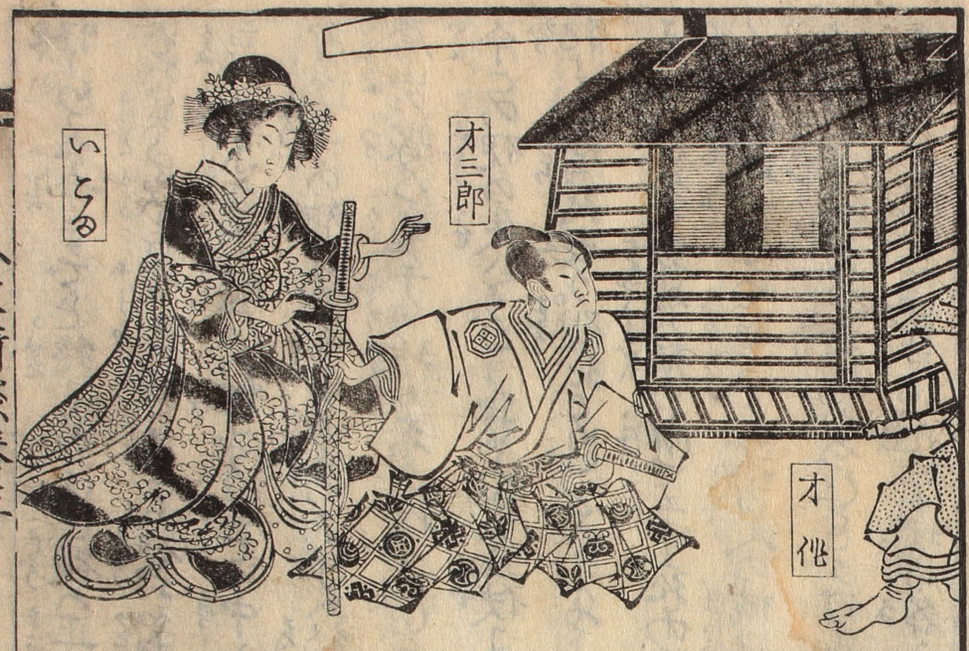
釋蕪弦傷に擬遺まつ。服紗を開く。硯ハ色。と見いふと。祝りく。おのけて。推向ぶ。尾花親子ハとの光景に。驚き呆れて。高弦注。小桔梗活駒も忙然と。こゝもそのあなる歎びの果ハ歎きの色。ええく。辞を出きもこなれ。そのとき才伝ハ硯の稽弦引ゝく。とゝもとと歎息。物る紀箱とゝらぶ。と使へ。女ゝ。ところ麗忽に伝ると。硯ハ年来秘蔵。伐戸に鎖を固く。女房世板ゆをゝ弦鎖させど。某とゝく。戯べきのことと弦えとゝ小一夜の中に失ゝる。申譯ゝ紀厄難。顧ゝる案内知ゝる癖者。暗建とゝく硯を盗。鎖鎖と舊のごく小ゝゝる歎。そゝ。ゝ。ゝ。不審。とゝ。ひて。弦又き。案ゝ入ゝる良人の自弦ゝ。硯ゝ小桔梗。活駒も共に硯の往方に。乳弦揭滅ら。墨ゝ。ゝ。ゝ。

撞て。忽地小膝を抜地と敲きひあつさるとあと。ものどもつ刀と取く。
壮しく外面へ走去んとすしるべ。大い烈しく鳴とゐ。やをと孩児不見こころ期る
及びく何処へ。ち使へ。乳と狼狽るやと叱さまぶ才三郎へつくと。舊の処へ
立ろ。こゐ大入暁ものへどゐ。此度も駒ゐ在所のる。養家を式墓ゆ紀ろとて。
そゐ又渚平なるを吾仏式いく恨ろく。罵ると甚。と苦境御渡ゆるとあり。
匹夫ゆ素ろ道理る暗。亦案内へく知ろ。ぞゐる式憤式散さんとて秘苑の
硯と盗るの。這奴ろをゐ抑推やよろて某彼処へ走き。守の威徳と藉ゆりて。
天井の上簀子の下まぐ。捜ると求んとゐひゆひ。禁のへとゐ。ぶとろへだオ
徳蔓小と公大と。そへとゐの汝ゐ推量のと正き澄据ゐりゆぶ。渚平ゐ硯と盗
むとと輙くとと式ゆさんや。且厳命式ゐ。ぞ。人の雑具ゐる式ゆさゐ毛を
吹く撫式求め。世の胡虜ゆなりゆゐ。必驚ぐゐるゆと理り責ゐる一句ゐ轍式。
傷ゐうちきく長通も。流ゐる嘆息。失ゐる硯の往方あれぞへ。と主と。禁る縁
坐の繊虚淡と仏のえあぐるゆ仏く。ち外式脱ゆ。ぶ才三郎ゐ後ゐのゐと
ろゐく吹筆ゆ。硯ゐ却仏ゐる。禍福ゐ実ゐ紛ゐ。ゆて式ゐ。ぶゐ。ぞゐ。
縛ゆ。ゐ果ぞ。ゐゐゆ。と。富ゐ。額ゆあゐる扇ゐ。用ゐね運ゐ小桔梗も活
駒も暁る硯の盗賊ゐ集とゐ。ゐ式ゐ。ゐひゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐゐ。ゐ才
仏へ刃と肉りと引抜く。肚へ下と突ゐゐとゐ。と騒ぐ妻も子と引まゐさ
ぜ。と左右ゐ。携る式掛ゐく声と激ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ才三郎ゐ禁ゐ
嗚呼ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。



深疵を忍ぶ才低
稲葉山人赴く

あらぬ命欲と。友音ゆゑなく母女房と。禁めう移るる才三郎に落る涙を揮拂ひ。こゝ推量違つゝどゝ父の仇人に潜平かり。硯もやがてとう復。怒気報ゆでゆゝゆゝん。死ゐゐでを事の果ゐ死ゐ。早りゆ宝物侍ゐ。噛家ゐる大人幸はゝく浅疵ゐり。出ところ雄こゐく者ゆゝといへ才低眼を睨り。蹴ゐり才三郎。故ちゐとゐとゐく。こゐとゐゐゐゐゐゐゐゐ。推ゐ気浅く肝気切ゐんやゐゐゐ。小膝気徇て。雌ゐゐ刃を引ゐとゐゐゐ。長通急ゐ推林ゐ。

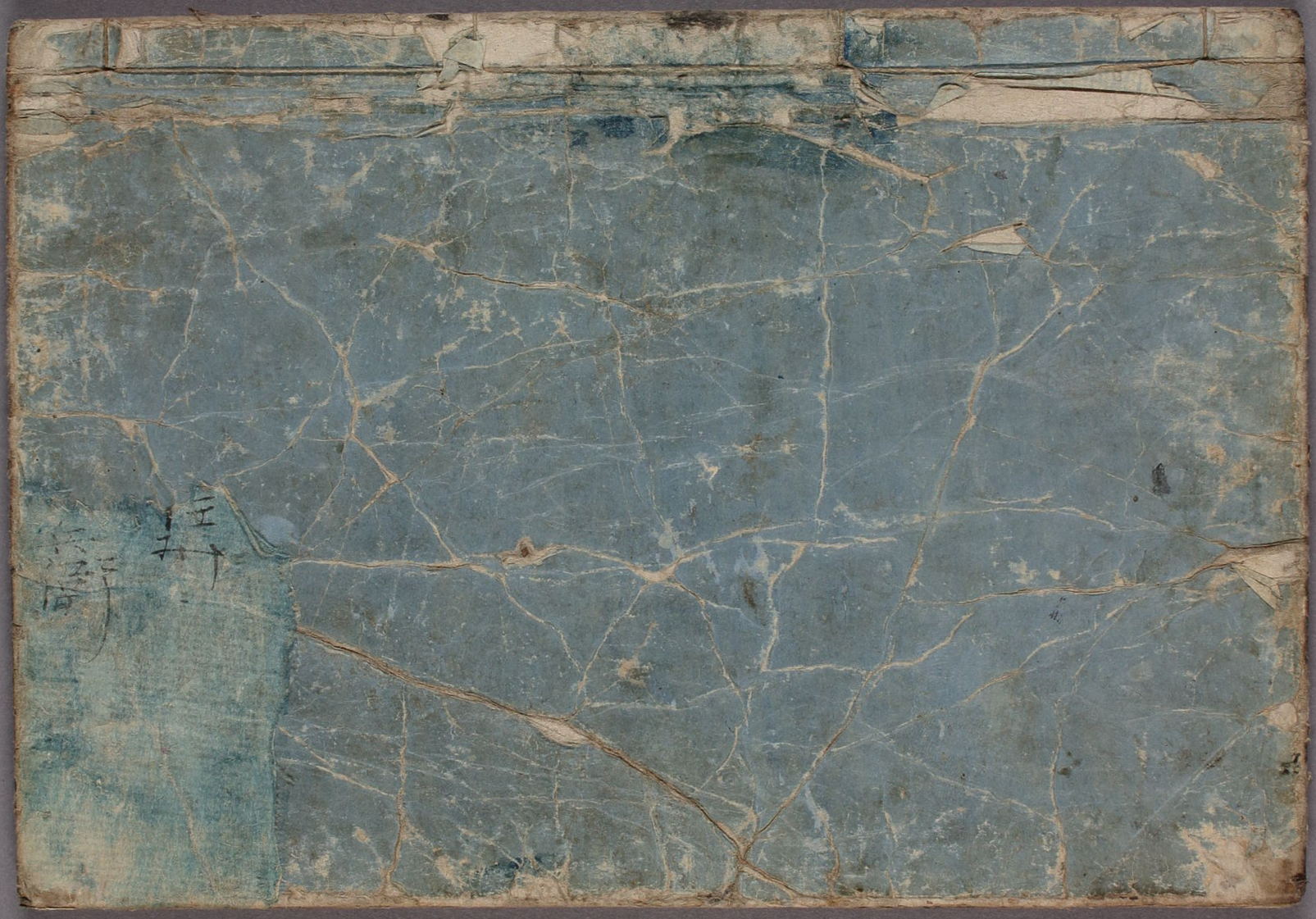


いゆゝの賢人ゝ獲ゐ死貨気貨ゐほゐ。仁心気りく宝とゐり。世ゐゝ稀ゐり硯ゝ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。偷見ゐり推量小違つゐゐゐ。一旦不虞ゐ刹ゐ。あゐゐゐ恩免の日ゐゐゐゐゐゐゐ。死気ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。空ゐ気硯の箱ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐゐ。瘴ゐ気ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。月ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

怪しうる今までを絶くなりし硯八平く。この紙の内よりあり。と見へつゝ。浜ゑ。
そは実の孫と又子夫婦。ゑまび硯八おもよりあり。と見へく。とぞう小教〳〵さこ
良しさふ。ふるゝ疑ひ釋ざりしそゞ中ふ小桔梗ハ袖もて涙を推拭ひいと深そう
かる女子の智紙ひそ。ろう。さるべうハるゝ。ゝ原とゝの硯乃出所紙ひ。ゝ。この
尾山の塚乃鬼。千回坊ゞ者ゝ移ゝ。いと惜ゝ。ゝ世ゝ。ゝ。ゝつゝとあれゞ。
今ゝの硯の失ゝ。ゝ。ゝゑ。ゝ。ゝゝ使ゝ自滅ゝ。ゝ。ゝ見ゝ。ゝ。ゝ。ゝ紙
犯〳〵く壞紙取ゝ。硯紙ゝ。ゝ。ゝ。

晴衣裳晴を忘れ袖の露まとよ濡て朽葉の色ぞまさりける長
通稲荷山の麓の紅葉を結びくく小脇に抱き。こゝ轎子へ才次郎と扶乗せ長
才三郎に父の傍に附そふて。とも喃ゝ。と妻と世婦ぶ。とあへぬ別
離の涙に。むせ〳〵とかくや彩平の。家なりしかく。あつぐへとくる。
こゝ。いろ〳〵。ゆ。式死役。まつ。と〳〵。ど。久。り。来ぬ。れ。を。長。の。風。戦。さ。招。く。こ。ひ
こゝ立つくと。敷。ま。と。穂。の。繁。薄。尾。花。に。宿。る。露。と。脆。き。人。の。命。も。

坤為地

驛舎の玲

白木屋渚平が。合。渡。と。く。。。駒。を。と。く。引。あ。げ。〳〵。狂。女。漢。水。ぶ。亡。骸。ろ。ま。と。を。入。水
ちつくよう。日。ぐ。ろ。猛。く。ま。と。ば。既。に。全。身。腐。爛。ろ。つ。へ。丈。帽。の。袴。式。被。き。ま。と。ば。ど。
こ。と。式。の。こ。ゆ。あ。て。に。。。